

キャラバン堂(藤枝市、富田佳和社長)は音楽などの記録媒体であるCDのデータ消去とリサイクルを同時に手掛ける全国でも珍しい企業だ。木材加工の要領で表面を素早く削り取ること、プラスチックだけの状態にする独自の技術を持つ。個人情報や機密を保護でき、環境にもやさしい処理方法として、音楽・出版業界などに提案している。



派実たくばは 発おかぜ

キャラバン堂

《会社概要》

▽所在地	静岡県藤枝市天王町3の9の42
▽事業内容	プラスチック製品の再生加工
▽設立	2004年1月
▽売上高	約6600万円 (2009年6月期)

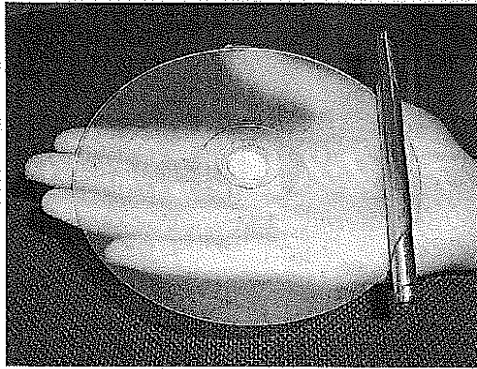
CDは上から印刷(レール)層、アルミ(反射)層、記録層、プラスチック層(基盤)の4つの部分からなる。そのまま廃棄処分すると情報漏れの可能性があるため、現在はプラスチック



富田佳和社長

での負荷が大きい。穴開けや破砕で処理した場合は、塗料やアルミなどが残り、リサイクル用の素材として適さない。キャラバン堂が開発した技術は、木材の加工機(カンナ)を改良した装置を使い印刷、反射、記録の3層を削り取って分離させるというものだ。処理時間は1秒間に約2枚。処理後に残ったプラスチックの円盤は、粉砕加

「カンナ」でCD再利用



CD表面をカンナで削るように分離した盤を再利用。削り取った棒状の部分はボイラー燃料に

工し、高品質のプラスチック製品素材に変える。印刷層などはボイラー用の固形燃料として活用する。

「サンドブラスト」と呼ばれる、表面に砂などを研磨剤を吹き付けて削る方法に比べ、コストが低いのも売りがた。CD表面をカンナで削るように分離した盤を再利用。削り取った棒状の部分はボイラー燃料に

2009年長が、04年に関連会社と年1月にして設立した。引き受け「CDメダた廃棄物の中にプラスチックのデータックが相当数含まれておタ消去事業り、「そのまま廃棄処分への進出」するのほもったいなく、として、静処理コストもかかる。リ岡県から経サイクルして利益につな営革新計画「げたい」と考えた。このため現在、日本情報処理開発協会が認定する「リサイクルマーク」の取得を目指し、社内体制を整備中だ。同マークの付与は、個人情報保護法に適合しているが、廃液が環境破壊の要因と問題視され、将来的に輸送が禁止される可能性がある(富田社長)と、事業拡大に向けた写真

静岡

静岡054-2553-7191
浜松053-4552-8565
36666